

2020年7月作成

# 郷土のわらべうたを 歌ってみよう

---

鳥栖のことばでは、わらべうたを、ちんかもんのうたといいます！



鳥栖市立図書館

TEL 0942-85-3630

ひと昔前の、鳥栖の子どもたちは、どんなうたを歌っていたのでしょうか？

図書館には、郷土の「わらべうた」の資料が残っています。

「次の世代に伝えたい。」そんな先人の思いが詰まった資料です。

図書館や、郷土資料に興味を持っていただきたくて、

楽譜をもとに、司書がむちゃして（笑）歌ってみました。

図書館のおはなし会などで、みなさんと歌ったうたを中心に、

鳥栖以外の佐賀県内のわらべうたも、入れています。

(付記) 曲名がはっきりしないものは、区別をつけるため、歌詞の初句を曲名として表記しています。

## 曲目

### とすのわらべうた

#### 1

- ① お重箱
- ② ずくぼんじょ
- ③ 栗やばし
- ④ おしべっとう

#### 2

- ⑤ そばそば一杯
- ⑥ ひいふくれた
- ⑦ ひとつろろ ふたろろ
- ⑧ いちにとらん

#### 3

- ⑨ 石垣ドンポ
- ⑩ カラスのうた
- ⑪ 手皿小皿
- ⑫ いっぽでっぼ
- ⑬ 一が刺した

#### 4

- ⑭ 盆くりやうれし
- ⑮ 青山じょうもんさん
- ⑯ 青山御所から

#### 5

#### 《 こもりうた特集 》

- ⑰ よいよいかめしゃん
- ⑱ 鳥栖のこもりうた
- ⑲ がんがんしゃん
- ⑳ 佐賀までいこでちゃ
- ㉑ うっすりこっすり

#### 6

#### 《 番外編 》

- ㉒ みずぐるま水軍のうた
- ㉓ 明治のこもりうた

### 佐賀県内のわらべうた

- ㉔ 馬はととし
- ㉕ とんぼ
- ㉖ こうもり
- ㉗ 十五夜のお月さんな
- ㉘ お月さん
- ㉙ うちのせんだんの木
- ㉚ からうめからだけ
- ㉛ でこぼうや
- ㉜ ひーやーふー
- ㉝ 小山の子うさぎ



## 《 とすのわらべうた 1 》

★おぼえやすいものから歌ってみましょう。

### ① 「お重箱」 (指遊びうた)

「おべんとうばこのうた」の鳥栖バージョン。「にんぎまま」は「おにぎり」の意味です。口伝者に確認し、「とすの口承文芸」に掲載された歌詞を一部修正して、歌っています。

手で三角を作ったり、れんこんやしいたけのまねをしたりして、指遊びをしながら歌います。鳥栖市立図書館のおはなし会でも人気です。

### ② 「ずくぼんじょ」

「ずくぼ」は「つくし」。「じょ」は愛称の接尾語です。鳥栖では「むすこじょ」「むすめじょ」というふうに、「じょ」を使います。「ずくぼんじょ」は「つくしんぼう」。「出てこらさい」は「出ていらっしゃい」という意味です。

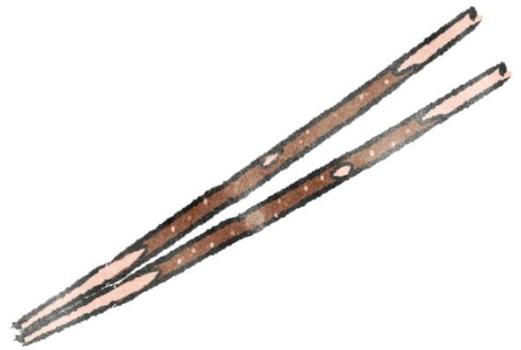
鳥栖の陶山聡氏(1909-99)の採譜が「佐賀のわらべうた(1960)」にのっています。NHK番組「にほんごであそぼ」でも紹介されました。

### ③ 「栗やばし」

栗やばしというのは、正月の料理を食べるために、栗の枝で作ったはしの事です。  
厨が栄え、やりくりがうまくいくようにと、縁起をかついだのです。

鳥栖の中でも、基肄養父(元対馬藩)では「くりやばし」、肥前(元佐賀藩)では「くいやばし」と言います。基肄養父と肥前では、このように、ことばや発音が、少し違います。このうたは、村田町(肥前)での採録なので、「くいやばし」で歌っています。

正月前に、いろり端で栗やばしを削るおじいさん。そこに集まってきた孫たち・・・  
そんな風景が浮かびます。



### ④ 「おしべっとう」

おしくらまんじゅうをして遊ぶ時のうたです。「出てくいやい」は、「出てください」という意味で、肥前のことばです。おはなし会でも、冬によく歌います。

## 《 とすのわらべうた 2 》

★風船つきうた・羽根つきうた・まりつきうたです。

### ⑤ 「そばそば一杯」 (風船つきうた)

このうたは、紙風船をつきながら歌います。「さい」で風船を高くあげて、「スルーッ」で、そばをすするしぐさをします。3杯4杯・・・と続けてうたいます。

紙風船が佐賀に入って来たのは、明治30年代の初めです。空気手まりと言われていました。

鳥栖と言えば、田代の入れ薬屋さん。お土産の紙風船も人気でした。



### ⑥ 「ひいふくれた」 (風船つきうた 羽根つきうた)

「おんめーさん」はおそらく「隠密さん」。「ひーふーみー」と、数える言葉が少し入っています。歌に合わせて風船をつくと、10回つけます。

鳥栖では1番の歌詞しか残っていませんでしたが、10番まであって、100まで数えられる歌詞が、神埼で採録されています。

羽根つきうたとして、紹介している本もありました。

### ⑦ 「ひとりろ ふたろろ」 (風船つきうた 羽根つきうた)

つくテンポに合わせて「ひとりろーー」と、長くのばして歌えます。

このうたも、紹介している本によって、風船つきうたになっていたり、羽根つきうたになっていたりします。どちらにも使ったのでしょうか。

明治の頃の羽根つきは、羽根を2人でつき合うのではなく、ひとり何回つけるかを、比べ合って遊びました。

羽根は、ムクロの木の実にカモの羽などをつけて、手作りしていました。



### ⑧ 「いちにとらん」 (まりつきうた)

最後の「ちよい」のところで、まりをスカート後ろに、くるっと入れます。

わらべうたとしては、とても珍しい3拍子のうたです。佐賀県内では後述の、「でこぼうや」が、同じく3拍子です。

## 《 とすのわらべうた 3 》

★口遊びや、指遊び、手遊びのうたを集めました。

### ⑨ 「石垣ドンポ」

ドンポは、ハゼ科のドンコという小魚です。川の中流域や水田の用水路に、よくいました。何でも珍しがって食いつくので、簡単に釣られます。

すぐに口出しする者を、「石垣ドンポ」と言ってからかったり、かくれんぼの時、鬼が近づいている事を仲間に知らせるために歌ったりしました。

前半部分は、県内や近隣に広く記録が残っていますが、後半部分が独特です。これは、鳥栖の田代小学校、大正7年の卒業生の方々がまとめられた「きやぶ<sup>ちんかものうた</sup> 唄」という個人ご所蔵のプリントに記録がありました。

### ⑩ 「カラスのうた」 (しりとりのうた)

「昔はよく、田んぼにカラスが群れでおりにきてね。そんな時、こんな言葉遊びをしていたよ。」というお話を聞きました。

「あたれ」は「火にあたれ」。「ひざれ」は「さがれ」という意味です。「ありゃごの」の意味は不明です。

養父町の牛島啓爾氏（1936年生）に、特別出演で歌っていただきました。

### ⑪ 「手皿小皿」 (指遊びうた)

鬼決めの指遊びうたです。ふたつの音の高低だけで、できています。

集まった子ども達が拳をつき出し、リーダーが、うたにあわせて人差し指でついていきます。「しょ」に当たった子を、ひとりずつはずし、最後に残った子が鬼になるという決めかたです。「だが」は「誰が」の意味です。

### ⑫ 「いっぽでっぽ」 (指遊びうた)

「手皿小皿」と同じようにして、遊びます。

言葉の意味もわからないまま、子ども達は歌いついでいくので、微妙に変化してたくさんのバリエーションが残ったうたがあります。これもそのひとつです。

久留米の望月克己氏（1926-1972）は、この類歌を10曲も書き残しています。

今回は、田代昌町で採録された楽譜で歌ってみました。



⑬「一が刺した」 (手遊びうた)

相手の手の甲を、かわるがわるにつまんで、上に重ねながら歌います。「ぶんぶんぶん」では手を解いて、蜂がとぶしぐさをします。

佐賀の東与賀町では「はちが刺した」のあとに「くまんばちが刺した」と歌われた記録があります。

図書館のおはなし会でも、楽しく遊んでいます。

《 とすのわらべうた 4 》

★手合わせうたです。

「せせせのせ。」と、むかい合って自分の手と相手の手を打ちあわせながら歌います。

⑭「盆くりゃうれし」 (手合わせうた)

鳥栖の麓地区では昔、村の7.8才から13才位の女の子が決まった場所に集まり、道ばやしに合わせて村の道をねり歩き、家々を回って踊る風習があったそうです。このうたはその踊りのうたであったかもしれないと記述がありました。

詳細は不明ですが、こんな明るいうたを、歌いあっている姿を想像しただけでも楽しくなりませんか。

⑮「青山じょうもんさん」 (身振りうた)

繰り返すところは、最初ひとりが歌い、次に他の人がまねして、追っかけて歌います。その部分は、手合わせを途中でやめて、歌詞に合わせた身振りをします。「櫛くしをね」で髪を櫛くしけする手まね、「涙をほろほろ」で涙がおちるしぐさという具合です。終わりの「どん」では、ひじ鉄砲をつきます。

「じょうもんさん」は「娘さん」「お嬢さん」の意味。「つき鉄砲」は雌竹めたけで作った紙鉄砲です。紙以外にも、青いジントンの実や小さな杉の実を飛ばしたりしました。

よく似たうたは全国にあり、佐賀県内にもいくつか残っています。これは、田代外町で採録されたものですが、資料によって歌詞の一部が少し違います。

⑯「青山御所から」 (手合わせうた)

上記の「青山じょうもんさん」の類歌で、蔵上町で歌われていました。

この蔵上町版。最後の「ごしょごしょ」からを、声に出して歌ってみてください。言葉のリズムがよくて、独特でかっこいいです。この部分を、「ずいずいずっころばし」のような指遊びをしながら、別に歌っていたという情報もありました。

## 《 とすのわらべうた 5 》

★こもりうた特集です。

『鳥栖市誌 生活民俗編』の分類によると、こもりうたは、わらべうたとは別に分類されています。こもりうたは、おとなが子どもに聞かせたうたと考え、わらべうたに含めにくいのです。ただ、昔の子守りは、年上の子どもが担う事も多かったわけで、区別する事が難しい側面もあり、わらべうた集に、こもりうたまで含めて記載している資料も多いです。

そこで今回は、この項目に、こもりうたをまとめました。

### ⑰ 「よいよいのかめしゃん」

幸津町で、採録されています。

子守りの防寒衣、ネンネコバンテンの事を、鳥栖では、トンジンとかトージンと言います。袖なしの四角い布団にひもをつけたものは、ガメンコ、ガメントンジン、ガメシャンと言いました。ガメンコを着た子守りのかっこうが亀の甲に似ている事から、かめしゃんと呼びかけて歌っています。

「あっぷか」は「きれいな」。「ぶいぶ」は「お茶」または「水」の意味です。



### ⑱ 「鳥栖のこもりうた」

『日本の子守唄』という、全国版の本に、このタイトルを見つけたので、歌ってみました。言葉がとても美しいです。

### ⑲ 「ガンガンシャン」

こもりうたには、寝かせうただけでなく、あやしうたもあります。これは後者。

「ガンガンシャン」は「お宮」のことです。お宮では、がらんがらん鈴を鳴らす事からきた言葉ではないかという話です。

「スンスン」は「進進」の字。「さあ、行きましょう。」と歌っています。

### ⑳ 「佐賀まで行こでちゃ」

陽気で楽しいです。鳥栖の保健センターの新生児検診で紹介した事もあります。

### ㉑ 「うっすりこっすり」

「<sup>うす</sup>すりこすり。うっすっどんの家では、芋を煮て食べている。俺に一つ食べさせてくれ。いやしいことは言うなよ。」という意味です。「<sup>ま</sup>食いござる」というのは鳥栖の中でも<sup>き</sup>基<sup>やぶ</sup>肄養父のことばで、肥前なら、「食いないよる」と言うところです。

「うっすっどん」というのは、米の<sup>ちみ</sup>糲はがしの仕事をする「<sup>ちみ</sup>糲すりさん」の事。普段は百姓をしながら、稲刈りの後、<sup>ちみ</sup>糲すり機を馬車にのせ、牛・馬にひかせて村々

の家を回って<sup>もみ</sup>すりをしていました。普通の百姓よりお金持ちだったので、こんなうたになっているのでしょう。

口伝者からのご指摘で、「とすの口承文芸」に掲載された歌詞の間違いを、一部修正して歌っています。赤ちゃんを、おんぶしながら、このうたを歌ったそうです。

## 《 とすのわらべうた 6 》番外編

★この2曲は、わらべうたには入りません。でも、鳥栖で昔歌われていたうたなので番外編として歌ってみました。

### ② 「<sup>みすぐるま</sup>水車のうた」

これは、仕事に携わる人たちによって歌われた労作歌のひとつです。わらべうたではありませんが、鳥栖市立図書館のおはなし会でも人気があります。水車でつく



を変えてトントン・・・こんな手遊びをしながら歌っています。

鳥栖には水車が、明治中期に50カ所以上ありました。神辺町の大木川流域と立石町の沼川流域、牛原町の安良川（岸田川）流域とその支流などにです。

「いんま」は「そのうちに」という意味です。

### ③ 「明治のこもりうた」

鉄道の分岐点の、鳥栖らしい歌詞です。こんな陽気なうたを歌って、子守りをしていた場面を想像すると、楽しくなります。真木町の手島りんさんが、昭和37年頃、歌っていらっしゃったという記録が残っています。

このうたは、明治40年代、演歌師、<sup>かみながりようかつ</sup>神長 瞭月さんが歌った「ハイカラ節」<sup>①</sup>が、もとのうたのようです。関東で流行って、形をかえながら各地に伝わっています。

例えば、上方落語「親子酒」にも、酔っ払いが歌う替えうたとして登場しますし、熊本では、熊本自転車節として定着したという具合です。佐賀県内でも他にも類歌が記録されています<sup>②</sup>。鳥栖では、これが鉄道にちなんだ歌詞になったところが興味深いです。

【参照】①『日本のうた 第1集』（野ばら社編集部 編、野ばら社、1998）P178

②『佐賀県の民謡：佐賀県民謡緊急調査報告書』（佐賀県教育委員会 編、佐賀県教育委員会、1988）P75、P340

## 《 佐賀県内のわらべうた 》

★おはなし会で歌った県内のわらべうたを紹介します。

### ②④ 「うまはとしとし」

鹿島のわらべうた。

ももとは、ふたりが両手を差し違えに組んで、その上に一人を乗せて運ぶような要領で、お馬さんごっこをしながら歌ったようです。おはなし会では、子ども達をおひざに乗せて、ポコポコはずませながら、みんなで歌っています。

「としとし」は「疾し疾し」で、すばやいという意味の古語だそうです。

### ②⑤ 「とんぼ」

「とんぼ」の事を佐賀では「やも」、「へぼ」と言います。大型のやんま（とんぼ）が「やも」で小型のとんぼが「へぼ」です。「おとん」は「おとり」、「ござらんかん」は「やっておいで」、「みずくりゆ」は「水をあげましょう」という意味です。

竹竿の先に糸をつけ、雌をおとりにしてとんぼつりをする時のうたです。

ちなみに、鳥栖では「やも」とは言いません。「へんぶ」と言っていました。

### ②⑥ 「こうもり」

夕方、巢から出て飛び回るこうもり。戦前は、たくさんいました。

「こうもりさん こうもりさん 花もようの手ぬぐいをあげましょう。一尺ほしか、二尺ほしいか、三尺までならあげましょう。」という内容です。

実際に歌うと、言葉が心地よくて、ついつい何度も歌いたくなります。

身近な生き物が登場する、呼びかけうたは、「カラス」「ほたる」「きゃあつぐろ（かいつぶり）」など、たくさん残っています。

### ②⑦ 「十五夜のお月さんな」 （鬼遊びうた）

目かくしした鬼役の子どもが真ん中にすわります。他の子たちは手をつないで周囲を歌いながらまわり、「ささよーい」で、腰を下ろします。「あずきささ」からは鬼の子が歌いながら前にいる子を探し、だれなのか当てる、人当て鬼遊びです。

これは、鳥栖のうたではありませんが、鳥栖の子ども達は、芋名月（旧暦 8 月 15 日夜）・豆名月（旧暦 9 月 13 日夜）に「名月さん」という行事を楽しみました。

秋には、おはなし会で「名月さん」の事を紹介したり、お月さまが出てくる、こんなわらべうたを歌ったりしています。



⑳ 「お月さん」 (鬼遊びうた)



こちらも上記と同様で、かごめ式の人当て鬼の遊びうたです。

「なしゃ星やでさっさん」は「なぜ星はでないのですか」。「なんやろかやろ」は「一体あれはなんでしょう」。「こふくろ」は「こどものふくろう」。「だあいよ」は「だれですか」といった意味です。「チリン カラン ポテッ」で周りの子ども達がしゃがみます。

㉑ 「うちのせんだんの木」 (関所遊びうた)

「せびがちいてなくよ」は「蟬が付いてなくよ」。「びっき」は「かえる」の事です。

背の高い順に手をつなぎ、大きい端の二人がつないだ手を高く上げて、くぐり戸を作ります。小さい方から、この戸をくぐっていきながら歌います。おしまいには、くぐり戸役もくぐります。それを繰り返すうちに、くぐり戸役が手を上げ下げし、通せんぼして遊びます。

㉒ 「からうめからだけ」 (まりつきうた)

みんなで歌います。まりのつき手は、ひとりで「〇〇さんにあげましょ。」のところを歌って、次の子を指名します。高くつき上げたまりを、指名された子が受け取って、つないでついていく・・・そんなまりつき遊びのうたです。

㉓ 「でこぼうや」 (まりつきうた)

珍しい3拍子のわらべうたです。

㉔ 「ひーやーふー」 (風船つきうた)

紙風船をつきながら歌う、おっとりと美しいかぞえうたです。

㉕ 「小山の子うさぎ」 (こもりうた)

唐津のこもりうたです。とても美しい歌詞で「おはなしのろうそく」というストーリーテリングの本などにも、紹介されています。

楽譜は、本によって「このはを」のところが違ってきます。「佐賀のわらべうた」(1960 音楽之友社)などに載っている楽譜で歌ってみました。

おはなし会で歌うと、子ども達がトロリと穏やかな表情になります。



## 歌詞

### ① 「お重箱」

さんかくの おじゅうばこに  
にんぎまま たたこんでつめこんで  
れんこんと  
しいたけさんも いやいや  
まつたけさんも いやいや  
どっこいしょ

### ② 「ずくぼんじょ」

ずくぼんじょ ずくぼんじょ  
ずっきんかぶって でてこらさい

### ③ 「栗やばし」

くいやばしゃ とったばって  
まだとしゃ とらんたん

### ④ 「おしべっとう」

おしべっとう こうべっとう  
いたかもんな でてくいやい

### ⑤ 「そばそば一杯」

そばそば一杯 そばおあがんなさい  
スルーッ  
そばそば二杯 そばおあがんなさい  
スルーッ スルーッ  
そばそば三杯 そばおあがんなさい  
スルーッ スルーッ スルーッ

### ⑥ 「ひいふくれた」

ひいふくれた おんめーさんな  
よーるも ひーるも  
ずっきんかぶって  
おむすびゃいっこ

### ⑦ 「ひとろろ ふたろろ」

ひとろろ ふたろろ  
みーみが よこまで  
いっさが むこどん  
ななせか やあせか  
ここのか とお

### ⑧ 「いちにとらん」

いーち にーと らん  
らんきょ くーて し  
しんがら ほーけ きょ  
のー のー ちよい

### ⑨ 「石垣ドンボ」

石垣ドンボ つら出すな  
つら出しゃつらるる あんほんたん  
あんほんたんも おらんげにや  
よがあけん

### ⑩ 「カラスのうた」

カーラスカーラス 田作れ  
田作れば 足がよごるる  
よごるるなら 洗え  
洗えば つんたか  
つんたかなら あたれ  
あたれば 熱か  
熱かなら ひざれ  
ひざれば 尻つく  
立てば 頭つく  
ありゃごのカラスは  
ギャッというて しんだけな

⑪ 「手皿小皿」

てざらこざら さらみてちよいとひけ  
てのはらしょうぶ だがへった  
げんぱち さらはち  
うんとこばちりんしょ

⑫ 「いっぽでっぼ」

いっぽでっぼ じょうりくじょ  
またくにくだらす  
ののべっちゃ のっさんしょ

⑬ 「一が刺した」

一が刺した 二が刺した  
三が刺した 四が刺した  
五が刺した 六が刺した  
七が刺した 八（蜂）が刺した  
ぶんぶるぶん

⑭ 「盆くりゃうれし」

せせせのせ  
盆くりゃうれし 正月くりゃうれし  
うれしの花は どこに咲くどこに咲く  
山にも咲かぬ 川へも咲かぬ  
石山寺の盆に咲く 盆に咲く

⑮ 「青山じょうもんさん」

青山じょうもんさんな 西の空を  
見一ればね 見一ればね  
見一れば見るほど 涙が  
ほーろほろ ほーろほろ  
流した涙は たもとで  
ふーきましょ ふーきましょ  
ふいたたもとは  
洗いましょ 洗いましょ  
洗ったもとは  
しぼりましょ しぼりましょ

しぼったもとは  
干ーしましょ 干ーしましょ  
干したもとは  
たたみましょ たたみましょ  
たたんだもとは たんすに  
なおしましょ なおしましょ  
なおしたもとは ねずみが  
ガーリガリ ガーリガリ  
かじったねずみは つき鉄砲で  
ズドーン

⑯ 「青山御所から」

青山御所から 東のほうを  
見一ればね 見一ればね  
門のそてらに おさよさんと  
書いたかね 書いたかね  
おさよさせさせ すいぎよの  
くしをね くしをね  
誰にもろたか 源次郎さんに  
もろたかね もろたかね  
源次郎男は 伊達者で  
困るね 困るね  
困る伊達者は 身持ちと  
なりました なりました  
身持ちゃいくつき ななつき  
やーつきね やーつきね  
そこで おさよさんも 涙を  
ほーろほろ ほーろほろ  
落ちる涙を なの葉に  
もんだかね もんだかね  
  
ごしょごしょ いっけんきなさい  
ちょうきつつあん  
蛇の目の唐傘 三代目  
ししきでっぼで ごはいめ  
のちゃのでっぼで どん

⑰ 「よいよいのかめしゃん」

よいよいのかめしゃんな  
あっぱかちゃわんで ぶぶのんで  
お医者さんに見せたりゃ 水ぶくれ  
よいよいよいよい よいよいよい

⑱ 「鳥栖のこもりうた」

ねんねんよ おころりよ  
坊やはよい子だ ねんねしな  
こもりのうたに ねかされて  
ねんねん ねむの花しぼむ

ねんねんよ おころりよ  
坊やはよい子だ ねんねしな  
こもりのうたに 日が暮れて  
空には 青い星ひとつ

ねんねんよ おころりよ  
坊やはよい子だ ねんねしな  
こもりのうたに よがふけて  
月もやまはに 顔を出す

⑲ 「ガンガンジャン」

ガンガンジャンに  
行くときゃ お手ふって  
ヤレ スンスン  
ヤレ スンスン

⑳ 「佐賀まで行こでちゃ」

佐賀まで行こでちゃ  
ヤレ スンスン  
坊やはよい子だ  
ヤレ スンスン

㉑ 「うっすりこっすり」

うっすりこっすり  
うっすっどんのかたにゃ

芋煮て<sup>ま</sup>食いござる  
俺いっちょ食わせんかい  
やしいこた言わさんな  
うっすりこっすり

㉒ 「<sup>みずぐるま</sup>水車のうた」

ギトントン ギトントン  
小川の水車  
車まわれれば 月日もまわる  
月日がまわれれば この屋のあるじ  
いんま 浦島さんになるだろう

㉓ 「明治のこもりうた」

チリリンリンと音するは  
鳥栖の停車場の発車ベル  
そこへ田舎のハイカラが  
駅長さん長崎線な どちらです  
長崎線はあっちです  
熊本線はこっちです  
あっちこっち言ってる間に  
汽車は出た

㉔ 「馬はとしとし」

馬はとしとし ないても強い  
馬は強いから 乗り手さんも強い

㉕ 「とんぼ」

やもよやもよ  
おとんにめかけてござらんかん  
やもよやもよ  
おとんにめかけてござらんかん  
やもよやもよ  
たかー上がり 水くりゅう  
シャンコシャンコおろせ

㉖ 「こうもり」

こうむいじよ こうむいじよ

花んてんげ くうりゅうだん  
一尺取っかん 二尺取っかん  
三尺までゃ くうりゅうだん

ドンドンシャンシャン  
ドンシャンシャン

②⑦ 「十五夜のお月さんな」

十五夜のお月さんな 松の影  
松からさされて 笹の影  
ササヨーイ  
あずきささ めささ  
とったが りっかんしよ

③⑩ 「からうめからだけ」

からうめからだけ からすがーびき  
とんでわたった  
このおてまりゃ だれにあげましょ  
はなの ○○さんにあーげましょ  
よううけとんさいの  
よううけとりました

②⑧ 「お月さん」

お月さん お月さん  
なしゃ星ゃ 出さっさん  
十五夜さんから 憎まれ坊で  
そこで星ゃ 出さっさん  
  
なんやろ かやろ  
池の端の こふくろ こふくろ  
うしろへおんもん だあいよ  
ちりん からん ぼてっ

③① 「でこぼうや」

でこぼうや 帰ろうや  
もうかれこれ 三時ごろ  
家ではね たまちゃんがね  
待ちこがれて いるんだよ  
今朝ね 猫がね  
ねずみとって チュー

②⑨ 「うちのせんだんの木」

うちのせんだんの木  
せーびがちいてなくよ  
ドンドンシャンシャン  
ドンシャンシャン  
せーびがちいてなかんときゃ  
びっきがちいてなくよ  
ドンドンシャンシャン  
ドンシャンシャン  
うちのくぐり戸は  
くぐりよかところ  
ドンドンシャンシャン  
ドンシャンシャン  
うちのくぐり戸は  
くぐりにくかところ

③② 「ひーやーふー」

ひーやーふー みーやーよー  
いーつーむー なーなーや  
ここのやとうと  
ひーやーふー みーやーよー . . .

③③ 「小山の子うさぎ」

こんこん小山の子うさぎは  
なぜにお耳が長うござる  
おっかちゃんのぼんぼにいた時に  
長い木の葉を食べたゆえ  
それでお耳が長うござる  
  
こんこん小山の子うさぎは  
なぜにお目々が赤うござる  
おっかちゃんのぼんぼにいた時に  
赤い木の実を食べたゆえ  
それでお目々が赤うござる

## 参考文献

(注)：書誌事項の下に付記した数字は、該当文献に記載されているうたの番号です

- ・『鳥栖のわらべうた』（とりんすシリーズ2）郷土研究会 編、郷土研究会、1976  
⑤⑥⑦⑨⑪⑫⑰⑳ （似ているうたの記載あり；⑮）
- ・『鳥栖市域の方言』（鳥栖市誌資料編；第7集）  
藤田勝良 監修、篠原真 編著、鳥栖市、2004  
③④⑤⑥⑦⑨⑫⑬⑯⑰⑳ （似ているうたの記載あり；⑪⑮）
- ・『とすの口承文芸』（鳥栖市誌資料編；第11集）鳥栖市誌編纂委員会 編、鳥栖市、2008  
①⑥⑩⑮⑲⑳㉑ （似ているうたの記載あり；㉒）
- ・『鳥栖市誌 第5巻』（生活民俗編）鳥栖市教育委員会 編、鳥栖市、2009 ⑨⑳
- ・『佐賀長崎のわらべ歌』（日本わらべ歌全集 24）福岡博、黒島宏泰 著、柳原書店、1982  
②⑦⑪⑭⑰⑱⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛ （似ているうたの記載あり；⑥⑨）
- ・『佐賀のわらべうた』坂根徹夫、福岡博、平田悦朗 編、音楽之友社、1960  
②⑤⑦⑭⑰⑱⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛ （似ているうたの記載あり；⑥）
- ・『わらべうた：日本の伝承童謡』町田嘉章、浅野建二 編、岩波書店、1962  
②⑩⑳㉑㉒㉓ （似ているうたの記載あり；⑥㉓）
- ・『佐賀県の民謡：佐賀県民謡緊急調査報告書』佐賀県教育委員会 編、  
佐賀県教育委員会、1988  
⑨⑩⑮㉑ （似ているうたの記載あり；⑥⑧⑰⑳㉑㉒㉓㉔）
- ・『筑後のわらべうた』望月 克己 著、筑後のわらべうた編集委員会、1976  
⑤⑥⑫⑰㉑
- ・『日本の子守唄』宮内仁 著、近代文芸社、1999 ⑱
- ・『<sup>すみか</sup>栖』鳥栖郷土研究会 編、鳥栖郷土研究会  
・13号、1988 ㉑ ・22号、1993 ⑰ ・25号、1994 ⑯

【付記】参考文献としては提示できませんが・・・

- ・個人ご所蔵の資料：『きやぶ<sup>ちんかもん</sup>童歌』（田代小学校大正7年の卒業生の方々作成）  
も参照させていただきました。 ⑨⑮
- ・口伝によって、確認させていただいたうたもあります。①⑧⑱㉑